



THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA-RYOHOKU

広島陵北ロータリークラブ

- The Weekly Report -

～クラブのテーマ～

こころゆたかなロータリアン

～本年度会長方針～

ロータリアン 一歩 前へ



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012年度
R.I.会長メッセージ

第991回例会 2011年9月7日 No.963号

会長時間



会長 南條 泰

本日の卓話は堀江君の紹介で落久保先生です。私は最近もの忘れが多くあり、これは認知症とは違うと確信しておりますが、先生には認知症のお話をお願いしております。後ほどよろしくお願ひします。

今月は新世代のための月間ですが、事情により少し変更させていただきます。2009年の国際協議会の研修で、10年後のビジョンとしてポリオを撲滅している。

会員数は世界中で200万人になっている。また、会員数の半分を女性が占める事を希望している反面、割合を30%までとすべきであるとの意見もありました。また、初の女性のRI会長が選ばれてほしい。ロータリーに若い会員を引きつける必要があるとの意見があり、そのためのアイデアとして、クラブや例会に柔軟性を持たせる、昼食以外の時間に例会を行う、会費を軽減することなどが挙げられています。その他、公共イメージを向上する、認知度を高める、新世代向けのクラブを作る、家族を会員として迎える、人道的目標に向けて各国政府との協力を増やす、ノーベル平和賞の受賞を目指す、などの意見がありましたが、現実はどうでしょうか。

ロータリー活動とは意見の対立があり、あってはいけない上下関係があります。会員に認めるのは経験だけでそれが権力ではありません。会員それぞれ「心ゆたかなロータリアン」になるため思い切って「一歩前へ」進みましょう。

今回の例会(9月14日)

創立21周年記念夜間例会

次回の例会(9月21日)

未 定

出席報告(渡部幹事)

9月7日(水)出席者

会員総数	39名
出席会員	28名
欠席会員	11名
ご来賓	1名
ご来客	3名
ゲスト	1名

来客者紹介(南條会長)

9月7日(水)出席者

益田RC	1名
広島RC	1名
広島東南RC	1名

幹事報告(渡部幹事)

■お知らせ

・RI第2710地区米山学友会より2011-12年度賛助会員入会のお願ひが届いております。ご入会を希望される方は事務局までお願ひいたします。

・次週の例会は「創立21周年記念夜間例会」へ変更しておりますので、お間違えのないようご注意ください。(於:リーガロイヤルホテル広島3階「宮島の間」)

■BOX配布物

- ・ロータリーの友(9月号)
- ・ガバナー月信



.....SMILE BOX

大旗健 君

米山奨学生のシターラ君が9月4日に韓日国際交流スピーチコンテストで最優秀賞をとられたそうです。詳細はシターラ君から...

南條泰 君

9月6日の日本経済新聞で会社の記事が載りました。自動車業界は大変厳しく毎日が改善そして改善です。コピー紙一枚でもムダを省くシステム造りに取り組んでおります。この記事に感謝してニコニコをさせていただきます。

武田龍雄 君(広島経済レポートより)

広島経済レポートによりますと地元金融機関の3月期決算で全機関で預金伸びており広島信用金庫も増益になっております。ますますのご発展を願ひ、武田君過去2週間の二件を合わせてニコニコへご案内します。

当日計

30,000円

累計

288,000円

ロータリー財団寄付表彰

南條泰君がマルチプル・ポール・ハリス・フェローの表彰を受けられました。おめでとうございます。



【例会】 毎週水曜日(12:30~13:30) / リーガロイヤルホテル広島(広島市中区基町6-78) / 082-502-1121

【会長】南條 泰

【事務所】広島市中区基町6-78 リーガロイヤルホテル広島13F

【TEL】082-221-4894

【幹事】渡部 邦昭

【ホームページ】http://www.ryohoku-rc.jp/

【FAX】082-221-4870

来 賓 卓 話

『認知症についての最近の考え方』

落久保外科循環器科クリニック

落久保 裕之 様

近年の高齢化社会の進展とともに、認知症に罹患される方も多くなり、社会として認知症に対する課題を真剣に検討しなければならなくなってきました。広島市の平成23年度の高齢化率は20.7%と、すでに5人に一人が高齢者という地域となっています。高齢者の中でも認知症に罹患し、何らかのケアが必要とされる高齢者は平成26年度推計で28,000人にも登ると予想され、高齢者9人に一人が認知症となります。認知症は決して他人事でなく、実際に苦しんでいる方、困られている方も多くいらっしゃいます。また、認知症の方を看っていく家族も大変です。その一方で、医療も進歩し適切な認知症の診断と治療及びケアにより、負担の多くは軽減できるようになってきました。



認知症とは物忘れがひどくなった方ではありません。もちろん物忘れもありますが、脳のある部分に生じた病気によって「認知機能」が低下し自分がそれまで営んでいた社会生活や日常の暮らしに支障が生じる状態・障害です。認知機能とは記憶、思考、判断など人が自分らしく暮らしていくために重要な機能です。認知機能が悪化する病気として代表的な疾患はアルツハイマー病で、認知症の約6割を占めています。10年くらい前から、その進行を遅らせる薬も開発され、実際の医療現場において大きな役割を担っています。また、今年に入り、3種類の認知症進行予防の薬も発売され、治療選択枝の幅が広がってきています。

一方で、認知症は脳の病気ですが、治療だけでなくケアも重要です。よく言われる「ボケたら、もうわからない」は間違いです。認知症の方は、日々社会生活がうまく営めず、大変苦しまれており、不安や恐怖が認知症の困った症状である徘徊や幻覚妄想などを引き起こしてしまいます。そのためにも家族を含めたケア及び正しい治療が大切となります。それも地域ぐるみで認知症の理解が求められており、広島市においても認知症サポーターという認知症に関する研修を受けた市民の方々がすでに2万人以上になりました。

認知症の方及びそのご家族のご苦勞を医師やケアマネジャーなどの専門職とともに地域の方々とともに支えることで、安心できる社会となっていくと考えます。